

新庄市議会議員行政視察報告

会派名 絆の会

(全体事項)

1 視察日程 平成 28 年 2 月 8 日 (月) ~10 日 (水)

2 調査事項 (視察先)

- ① 結婚促進事業の推進と展開 南あわじ市 兵庫県
- ② 道の駅 うずしお 株式会社うずのくに南あわじ 兵庫県
- ③ 共同参画社会の実現に向けた取り組み 兵庫県男女共同参画センターイーブン

3 視察参加議員 (議席順)

今田浩徳 清水清秋 新田道尋 森儀一 (代表)

(具体的事項)

調査事項 I 南あわじ市縁結び事業推進と展開 南あわじ市
説明者 南あわじ市議会 議長 原口育大氏
南あわじ市ふるさと創生課課長北川真由美氏
定住対策係副主幹前田秀美氏

(視察事項)

地域の紹介

定住、結婚促進事業について

縁結び事業について ハッピーマジック事業の概要効果

定住促進施策について

施策の内容、効果、地元への定着率について

視察日時 平成 28 年 2 月 8 日 (月) 午後 3 時~5 時

地域の紹介

2006 年 1 月に三原町、緑町、西淡町、南淡町が合併し、面積 229,23 km² 人口 49,544 人 (H27. 4 現在) の有する市であり兵庫県の最南端に位置し、水稻、露地野菜（玉ねぎ、白菜、キャベツ）畜産、漁業が基幹産業であり、食をテーマに共生の街つくりを進めています。また、27 年 4 月に新庁舎が開庁し市政運営の核としての機能が強化されました。

視察所感

人口問題に関しての課題や対策への取り組みは各自治体の考え方もあることですが、「ここで働き、ここで生活、生計を営む」思いを持つ市民を支えることが大事です。その基礎となるのが定住であり、結婚であります。広域の事業として婚活は事業化されていますが、当市としてのスタンスを明確にして取り組めるよう、多岐に亘り事業展開しています南あわじ市を参考に今後の活動に繋げて行きたいと思います。また、視察の際には原口議長にも参加いただき震災後 20 年、合併後 10 年の話を聞きました。常に震災は頭にあり、街つくりに於いてもハード、ソフト両面に力を入れて備え、市民の防災意識を高めていることが理解できました。

実績効果

止まらぬ少子高齢化の懸念は、適齢期の子を持つ親はもちろん地域にとっても同じです。共通する問題意識を持った市長をはじめ自治会その他各種団体、企業他が集まり事業推進協議会を立ち上げ、市のふるさと創生課が事務局を担当し管理も行う。会員登録は 20 歳以上 60 歳未満の男女で男性は淡路島在住、在勤、出身者で女性は住所限定なし。男性 213 名、女性 126 名が出会いを待っています。企業や団体、市民のサポートが充実しておりイベント開催数の多さが物語っており 18 組の成婚数（8 年間）の実績をあげ、結婚したい人、応援したい人の相互感情が相まっておりこれから先も何組かは成婚間近とのことでした。68 の事業は会員が企画して自らが楽しむ内容にしてあり工夫が感じられました。併せてスキルアップセミナーも一講座が 3 ないし 5 回と丁寧に開催されてました。企画が多ければ出会いのチャンスも多いのがよく理解できました。

新婚の負担軽減策として家賃補助事業を推進し、条件は婚姻届から 4 年以内、夫婦合計 80 歳以内、3 万円以上の賃貸住宅、市税家賃を滞納していないなどありますが、229 件 19,415 千円の実績があり、世帯数の増加が見られ、何よりも子供が 1 人～2 人生まれた世帯が 174 の回答中 82 世帯あり更に、通勤通学交通費助成事業と合わせることでより市内定住者が増えており人口減少の加速化を抑えて

いると思います。

評価課題

登録している会員の年齢が男性 40 歳以上 115 人/213 人で女性 35 歳以上 85 人/126 人と高くなりつつあり晩婚化が懸念され、新たな会員の獲得にどのような企画立案、施行ができるのか当市に於いても同じ課題と思える。また、世代間の相違もありいかにして 20 代を取り込んで行くかが婚活活性の課題とも言えます。結婚後の新婚世帯への助成は算定可能ではありますが定住と出産育児、就職と連携運動した施策を講じなければ結婚、定住にはつながらないと思います。定住自立構想を踏まえ県も含めて協力して事業を推進して行くべきと思います。

II 道の駅 うずしお 株式会社 うずのくに南あわじ

兵庫県 南あわじ市

視察日時 平成 28 年 2 月 9 日 (火) 午前 9 時 40 分～11 時

旅行形態の個人化やグループ化、自動車旅行の増加から、女性や家族客に好まれる観光商品の開発として、鉢植えで果実や野菜を育て一つの場所で摘み取れる体験を提供し手軽にいろいろな果実や野菜の収穫体験、食べ比べができる事業に取り組み、来場者数、売上共に増加させ、平成 21 年 2 月に通年型観光農園が農商工連携事業計画として農林水産省、経済産業省、国土交通省の認定となる。また、道の駅内でも 700 種類の品揃え中 70 品がオリジナル商品であり独自性が際立ち全国人気商品を連発して開発販売をしています。特産物のたまねぎや牛肉、水産物と産学官が連携して生産し抜群なロケーションの地で販売する。当地域においても道の駅構想があがっています。売れる商品の開発と誰もが納得する場所の選定が大切です。学習や体験を含め素晴らしい施設が計画されることを願います。

調査事項III 男女共同参画センター イーブン 神戸市 兵庫県

説明者 兵庫県立男女共同参画センター

企画啓発課長 矢野芳朗氏

兵庫県立男女共同参画センター

就業支援課長 神頭由紀氏

(視察事項)

イーブンの概要

実施事業と施策体系

女性参画による危機管理意識の醸成と効果的施策

共同参画社会の成熟に向けた取り組みについて

視察日時 平成 28 年 2 月 10 日 (水) 午前 9 時 40 分～12 時

イーブンの概要と設置目的

新ひょうご男女共同参画プラン 21 の推進拠点として人材育成、活動支援、ネットワークの推進、チャレンジ支援、相談、情報発信、普及啓発など多彩な事業を実施。平成 4 年 10 月に男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、その個性と能力を十分に發揮し、協働することができる男女共同参画社会の形成を図るため、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を総合的に推進する施設として設置

視察所感

女性の活躍する機会は年々増え環境も整備が進んでいます。しかし、受け入れ先には資格や経験年数を条件に高い能力を要求する実態があります。根気強く学ぶ姿勢とより専門的な講座や講習、訓練によりその条件をクリアさせ社会進出を補助しながら事業が執行して、また企画が計画されと繰り返し新たな取り組みがなされ女性のニーズに応え、社会の需要に応えと、密度の濃い事業が 8 項目に亘り展開しており、支えるスタッフの活動に感銘を受けました。

実績効果

男女共同参画、女性支援などと言う言葉はどれだけ市民権を得ているでしょうか。特に地方に行けば行くほど稀薄な言葉であり、取組みも弱いとの話を伺いました。共同参画社会の実現に向けて現在力をいれている事業は人材育成で各地域で活躍するリーダーを養成するのが必須で、6 月から 12 月までの 25 回連続講座に 36 人、スキルアップ研修に 20 人、各種セ

ミナー(8回)に479人と県全体の底上げを図り、リーダーとしての自覚を持ち活動して頂くとなる。また、男女共同参画社会つくり条例に基づき推進委員を任命し地域支援の啓発事業を実施する。普段より共同参画社会を意識してれば、働く意欲やボランティア精神が醸成され活動枠が広がります。県が主体となって事業提案をしてリーダーシップをとって行くよう提案して行かなければならない。先進地域でも問題はあるとのことなので当市にとっても県との関連性を強め男女共同参画社会の形成を進めるためにも参考にしていくべきと感じました。

評価課題

震災後20年が経過して、復興が進み過去の出来事となりつゝある現在でも市民の心の風化は全然しておらず毎年防災についてイベントや講習が企画されていました。その中心になっているのが女性たちであり震災の経験から地域の防災力の大切さをまとめ、～兵庫の女性たちから10の提言～「防災、減災、復興に女性の力を」発表しました。内容をハンドブックやテキスト、絵本にしたりと様々な方が目や手にすることができ、親子、母と子のテキスト等を含めると数十種類になり女性からの視点母からの視点とつぶさに書かれており防災の意識付けに大きな効果を生んでいます。男女共同参画社会において女性の観点や行動力は地域や社会に影響を及ぼす力が大きくなり男性と同じになってきていると考えます。互いに思いやりながら生活して行くことが共同参画社会の成熟に結び付くのではないでしょうか。当市に於いても活き活き働く協働の街つくりが形成できる様努力して行かなければならぬと思います。